

中学校第1学年 国語科学習指導案

日時 平成30年10月19日（金）2校時

指導者 教育センター所員 目野 登美恵

単元名 私はこう考えますが、どうですか ～筆者に自分の考えを届けよう～

教材名 「スズメは本当に減っているか」三上修（東京書籍1年）

1 単元について

(1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領における〔C 読むこと〕領域の「イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること」と、「オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること」を目標としている。

本教材は、世間でささやかれている「スズメが減っている」といううわさに対し、筆者が「本当にそうなのか」という疑問をもち、検証していく過程を書いた文章である。筆者は、図表から読み取れる事実を基にして、自分の考え（推測・意見）を述べているが、事実をそのまま受け入れて結論付けるのではなく、自分自身の考えに対しても批判的に検証を進めている。その検証過程をたどることで、「本当にそうなのか」「ほかの考えはないのか」と、文章を批判的に読むことの重要性に気付くことができる教材である。

また、文中には、4つの図表が示されており、文章と図表の対応を確かめることによって、筆者の考えやその基となる事実を的確に理解することができる。ただし、グラフや表は、見た目の印象に左右され、誤った認識をもってしまうこともあるため、正しく情報を読み取る必要がある。文章と図表を対応させながら内容を読み取っていく力は、たくさんの情報があふれている現代において必要とされる力であり、他教科の学習においても必要とされる力である。その点からも、本教材は有意義な教材であると考えられる。

(2) 生徒観

生徒は、「イースター島にはなぜ森林がないのか」（東京書籍6年）という教材で、文章に対する自分の考えをもつ学習を行っている。しかし、テキストの内容や表現を吟味したり検討したり、妥当性や客観性を評価したりするなど、批判的な読み（クリティカル・リーディング）をした経験はない。そのため、批判的な読みとはどのようなものか、また、どのような点に着目して読めばよいかを示す必要がある。

また、生徒は、小学校算数科の学習で、5種類のグラフ（棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフ、柱状グラフ）の特徴について学んでいる。そして、小学校国語科の学習では、「資料を生かして考えたことを書こう」（東京書籍5年生）という教材と、「資料を生かして呼びかけよう」（東京書籍6年生）という教材で、資料から情報を読み取り、読み取った情報を活用して文章を書く学習活動に取り組んでいる。そのため、図表から情報を読み取ることは既習事項となる。しかし、生徒に実施したアンケートによると、「図表などの資料から、必要な情報を捉えることができる」という項目に対して、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と回答した生徒が約57%おり、資料の読み取りに困難を感じている生徒も少なくない。本教材では、図表を基にして、事実と筆者の考えが述べられており、文章と図表を対応させながら読むことが不可欠であるので、既習事項を振り返らせながら、正しく情報を読み取るための視点について確認していく必要があると考える。

さらに、今回の単元では、生徒同士の対話的な学習活動を取り入れるが、事前に行った実態調査によると、「相手が伝えようとしていることを理解しようと努めている」「話し合う目的や内容を理解している」という項目に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が約70%おり、対話的な学習活動への意欲が感じられる。しかし、「自分の考えの根拠をもって話し合っている」「自他の考えを比較したり関連付けたりして整理している」「自分の考えを広げたり深めたりしている」といった項目

では、約 60%の生徒が「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と回答している。そこで、対話的な学習活動を行う際には、自分の考えの根拠をもたせ、整理した自他の考えを基に、ものの見方や考えを広げたり深めたりする学習活動になるよう工夫する必要があると考える。

(3) 指導観

生徒は、文章を批判的に読むということに慣れていないため、書かれていることをそのまま事実として疑わない傾向にある。それが教科書教材となるとなおのこと、疑いようのない事実や考えしか書かれていないと考えるであろう。しかし、日常生活の中には様々な情報があふれ、その中には、発信者の意図が含まれた情報が混じっていることもある。そのため、文章を批判的に読んだり、図表から情報を読み取ったりする力は、未来を担う生徒たちに身に付けてほしい力の一つである。本単元では、そのような力を身に付けさせるため、「筆者に自分の考えを届けるための意見文を書く」という言語活動を位置付け、筆者のものの見方や考えを捉え、自分の考えをもつ学習活動を行う。

本単元では、まず序論と結論を読み、その後、結論を導き出すための筆者の考えや根拠を捉えながら本論を読み進める。文章と図表を照らし合わせて読む中で、「何を表す図表なのか」「図表の情報がどうやって得られたものなのか」など、読み取るべき情報について確認させたい。そして、「文章からしか分からないこと」「図表からしか分からないこと」などを整理させることによって、事実と筆者の考えとを読み分けさせたい。その際、事実から意見に至るまでの推測にも着目させ、ワークシートを使って整理させる。そのようにして読み取ったことを基に、妥当性、整合性といった観点で文章を検討し、疑問に思う点を挙げさせる。さらに、疑問に思う点を生徒同士で交流し、互いの考えに対する意見を交流する学習活動を行うことで、自分自身の読みを深め、筆者のものの見方や考えに対する自分の考えを広げる機会としたい。

2 単元の目標

- (1) 学習課題に興味をもち、目的意識をもって文章を読もうとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 事実と筆者の考えを読み分けながら、文章の展開を捉えることができる。 (読むこと)
- (3) 文章の内容を踏まえて疑問点を挙げ、筆者のものの見方や考えについて、自分の考えをもつことができる。 (読むこと)
- (4) 文末表現などに着目して、事実と筆者の考えとを読み分けすることができる。 (言語についての知識・理解・技能)

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度【関】	読む能力【読】	言語についての 知識・理解・技能【言】
①学習課題に興味をもち、目的意識をもって、文章を読もうとしている。	①事実と筆者の考えを読み分けながら、文章の展開を捉えている。(イ) ②文章の内容を踏まえて疑問点を挙げ、筆者のものの見方や考えについて、自分の考えをもっている。(オ)	①文末表現などに着目して、事実と筆者の考えとを読み分けている。(イ (ウ))

4 単元の指導と評価計画（全5時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（【 】） 評価方法（〔 〕）
1	<p>○図表を基にして、筆者の考えを書いた文章を読み、筆者と異なる考えがないか考える。</p> <p>○疑問に思う点について、グループで交流する。</p> <p>○筆者に届ける意見文のモデルを読み、学習課題と単元のゴールをつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・批判的な読みを体験させるために、「筆者の考えが納得できるか」「ほかの考えはないか」と問い掛ける。 ・ものの見方や考えは、人によって異なることがあるということに気付かせる。 ・本単元における言語活動と単元のゴールを明確にイメージすることができるように、教師が書いたモデル文を提示する。 	<p>【関①】 学習課題に興味をもち、文章を読もうとしている。 〔ワークシートへの記述の分析〕 〔学習活動の観察〕</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題</p> <p>この単元では、筆者のものの見方や考えについて、自分の考えをもつ学習をします。事実と筆者の考えを区別して読み、筆者に自分の考えを届けましょう。</p> </div>			
	<p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>○序論と結論の内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を解決するために、自分に必要な力は何か、既習事項も含めて考えさせる。 ・筆者の考えに対する自分の考えをもつという学習課題をイメージすることができるように、本論にはどのような内容が書かれているか予想させる。 	
2	<p>○図表の読み取り方を確かめる。</p> <p>○本論を読み、それぞれの図表から読み取れることを捉える。</p> <p>○図表について読み取れることをグループ内で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図表から情報を読み取るためには、「表題」「縦軸と横軸」「単位」「出典」などに注目することが必要であることを確認する。 ・図表に対する自分の考えをもつことができるように、「客観性のある記録か」「長期的な記録か」という点について考えさせる。 ・図表の読み取りを深めることができるように、分からなかったことについても共有するように促す。 	<p>【言①】 文末表現などに着目して、事実と意見を読み分けている。 〔ワークシートへの記述の分析〕 〔学習活動の観察〕</p> <p>【読①】 事実と筆者の考えを読み分けながら、文章の展開を捉えている。 〔ワークシートへの記述の分析〕 〔学習活動の観察〕</p>

<p>3</p>	<p>○事実と筆者の考え（推測と意見）の文の違いを確かめる。</p> <p>○「筆者の考え（推測・意見）」を読み取る。</p> <p>○文章と図表を照らし合わせて読み返し、筆者の考えに対する自分の考えをワークシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事実と考え（推測と意見）の文の違いについて、例を挙げて説明する。 ・筆者の考えを的確に捉えることができるように、文章に線を引いたり、図表に印を付けたりしながら考えるように促す。 ・「推測」と「意見」を区別することができるように、文末表現に目を向けさせる。 ・自分の考えをもつことができない生徒のために、「客観性のある記録か」「長期的な記録か」「筆者の考えがどのような根拠から導き出されているか」など、考える際の着目点を示したヒントカードを用意する。 	<p>【言①】 文末表現などに着目して、事実と意見を読み分けている。 [ワークシートへの記述の分析] [学習活動の観察]</p> <p>【読①】 事実と筆者の考えを読み分けながら、文章の展開を捉えている。 [ワークシートへの記述の分析] [学習活動の観察]</p>
<p>4 本 時</p>	<p>○話合いの目的や進め方などを確かめる。</p> <p>○グループで、筆者のものの見方や考えに対する互いの考えを出し合い、それに対する考えを交流する。</p> <p>○筆者に届ける意見文（筆者への質問状）に取り上げる「事実」「推測」「意見」をワークシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対話のポイントを書いた掲示物を提示して、説明する。 ・自分の考えがどのようなことに対する考えなのかが分かるように、本文中の文章や図を示しながら発言するよう促す。 ・グループで交流した考えを踏まえて、筆者に届ける意見を選択させる。 	<p>【読②】 文章の内容を踏まえて疑問点を挙げ、筆者のものの見方や考えについて、自分の考えをもっている。 [ワークシートへの記述の分析] [学習活動の観察]</p>
<p>5</p>	<p>○前時のワークシートで整理した内容を基に、筆者に届ける意見文を書く。</p> <p>○書き終えた意見文をグループ内で読み合い、評価する。</p> <p>○本時及び単元全体の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者に届ける意見としてふさわしいかどうかを確認させるために、根拠が適切かどうかを意識させる。 ・意見文をよりよくするために、評価の判定基準を確認させ、適切な評価を行うことができるようにする。 ・単元全体を通して身に付いた力、身に付いた力が活用できる場面について記入させる。 	<p>【関①】 目的意識をもって、文章を読もうとしている。 [ワークシートへの記述の分析]</p> <p>【読②】 文章の内容を踏まえて疑問点を挙げ、筆者のものの見方や考えについて、自分の考えをもっている。 [ワークシートへの記述の分析] [学習活動の観察]</p>

5 本時の目標

筆者のものの見方や考えについて、自分の考えをもつことができる。

6 本時の展開 (4/5)

	学習活動	指導上の留意点
導 入	1 本時のめあてを確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> 前時に書いた自分の考えを振り返らせ、「その考えに対する別の考えはないだろうか」と問い掛けることで、本時のめあてに導く。
	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">本時のめあて</div> 互いの考えを交流し、自分の考えを深めよう。	
展 開	2 話合いの目的や進め方などを確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> 互いの考えを交流することを通して、自分自身の読みを深めることが目的であるということを伝える。
	3 筆者のものの見方や考えに対するそれぞれの考えをグループ内で出し合い、出された考えについてどう考えるか、互いの考えを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えがどのようなことに対する考えなのか分かるように、本文中の文章や図を示しながら発言するよう促す。 他者の考えをより理解させるために、考えの根拠を確かめながら交流させるようにする。 他者の考えを聞いて、納得できた考えについては、ワークシートに色を変えて書き加えさせ、最初の考えと区別できるようにする。 考えの変容が捉えられるようにするために、交流する中で変わった考えには、シールを貼らせる。
	4 筆者に届ける意見文（筆者への質問状）に取り上げる「事実」「推測」「意見」をワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> グループで交流した考えを踏まえて、筆者に届ける意見として考えを選択させる。 考えを支える根拠が適切かどうかを意識させるために、「文章や図表に書かれている事実」、「事実から考えられる推測」、「自分の意見」の三つのつながりを確かめさせる。 書くことができない生徒には、ワークシートに示した記入例を確認させる。
終 末	5 本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、筆者に届ける意見文（筆者への質問状）を書き、書いた意見文をグループで読み合うことを確認する。

7 本時の評価規準と判定基準

評価規準	文章の内容を踏まえて疑問点を挙げ、筆者のものの見方や考えについて、自分の考えをもっている。【読】		
評価の基準	十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C)
	自分の考えを適切な根拠とともに、ワークシートに記入することができる。	自分の考えを根拠とともに、ワークシートに記入することができる。	自分の考えはもっているが、根拠を挙げることができていない。
→ (B), (C) と判断した生徒への支援		→ 「事実」「推測」「意見」の順につなげて読ませ、論理の整合性を確かめさせる。	→ワークシートに示した記入例を確認させ、「事実」または「自分の考え」から記入するように促す。
評価の方法	ワークシートへの記述の分析、学習活動の観察		